

# ザ・コラム

The column



吉田 文彦 (論説委員)

フクシマの事故原因が最悪の事態におおいた場合、どうなるのか。それを予測した政府内の資料が、昨年3月25日付で作成された。

当時、内閣官房参事だった田坂広志氏は予測結果を知り、「現実起きたらどうなるのか」と愕然とした。首都圏3千万人避難の可能性が示唆されていたからだ。

おおむね次のような「負の連鎖」が想定されていた。水素爆発が起こり、原子炉から大量の放射性物質が放出され、原発敷地内での冷却作業が不能となる。その結果、炉内の核燃料と使用済み核燃料が溶融を始め、さらに大量の放射性物質が飛散する。

そうならば、強制移転の地域が170<sup>+</sup>以上に広がる。自主的な移転を認めるべき地域が250<sup>+</sup>に達しても拡大する可能性もある。すなわち、最悪の場合、首都圏3千万人避難の事態となりうる。

その夜、首相官邸を出た田坂氏は、駐車場で見上げた。自分に言い聞かせるように、こう思った。「自分は映画をみているのではないのだ……」。原子力工学が専門の田坂氏が、「現実の深刻さを受けとめかねた瞬間だった」と、自著『官邸から見た原発事故の真実』に記している。

結果的には、最悪シナリオは避けられた。現場での事故收拾への努力が事態悪化の歯止めになったことだろう。それでも田坂氏に聞くと、最悪に至らなかったのは、「幸運に恵まれた」というのが、危機に対処した人間の実感だ」と振り返る。

「負の連鎖」をもたらす、さらなる水素爆発や強烈な余震や津波が起きても不思議ではなかった。「事態を把握して事故拡大を抑え込んだというより、幸運に救われた面、われわれがコントロールし切れていない何かに助けられた感はある」と。

自分たちの手を超えた要因に左右されているとの思いを抱いたのは田坂氏ばかりで

## 「見えざる手」をも検証せよ

### ヒロシマ・フクシマX

はなかった。日本再建イニシアティブ(一般財団法人)の福島原発事故独立検証委員会の聞き取り調査に、「官邸中枢の一人」はこう証言している。「この国にはやっぱり神様がいらっしゃる」と心から思った」

田坂氏の体験を聞いて思い起こしたのが、生前のロバート・マクナマラ氏の話だ。米ソが核戦争の瀬戸際まで対立した「キューバ危機」。その当時、米国防長官だった彼は、後年、事故收拾は「幸運のたまもの」と言い切っていた。

1962年10月。米国は、敵対するキューバへ、核搭載可能なソ連の中距離ミサイルが運び込まれたのを察知した。ケネディ政権は米本土が射程内に入るのを危惧し、全面撤去をソ連に求めた。息詰まるような外交、軍事的対局のすえ、無事に中距離ミサイル撤去という決着をみた。

なぜソ連が退いたか。真相は不明だったが、とにかく核戦争は回避された。危機をくぐりぬけたのは、米国の核戦力が圧倒的に優位だったおかげと、「核抑止の成功物語」として語られることも多かった。ところがマクナマラ氏は、それを否定するかのように、幸運を強調するようになった。

実はその時のキューバには、飛距離の短い戦術核がすでに配備されていた。米国がキューバに攻撃したら、この核で応戦する権限が現地ソ連軍にあった。キューバも核報復を辞さない覚悟で、米国が思ったほどには核抑止は効いていなかった。

そうとは知らずに米国は、ソ連が要求に応じなければ、キューバを攻撃する計画をたてていた。ソ連が妥協してくる前に攻撃をしかけていたら、どうなっていたか。人類の歴史は大きく変わっていただろう。

すべてを計算し尽くして平和決着を持ち込んだわけではなかった。本当の危機の度合いを知らないまま、人知が及ばないものに救われたかのように危機が通り過ぎた。だからこそマクナマラ氏には、「幸運のたまもの」と思えてならなかったのだ。

国家が危機管理にのぞむ時、その瞬間に、危機の本当の大きさを知ることは容易なことではない。危機が終わったあと、田坂氏やマクナマラ氏のように、幸運という名の「神の見えざる手」を感じるのも、うなずける気がする。

そこで大事なのは、起きた危機を徹底検証し、次なる危機の回避や対応で人知の及ぶ範囲を拡大し、確たるコントロールのもとで難局を乗り切る能力を高めることだ。

キューバ危機が、その発生当時に考えられていたよりも、はるかに核戦争に近づいていた事実がわかったのは、冷戦終結の後だった。マクナマラ氏も含めて、危機の時に米国、ソ連、キューバで意思決定にかかわった人物たちが一堂に会して、検証作業を行った。その成果が、危機管理のあり方を問う歴史的教訓ともなってきた。

フクシマではどうだったのか。最悪どころまで近づいていたのか。それを防ぐのに、これまで人知による判断が役立ち、ここが「神の見えざる手」に頼るところとなったのか。キューバ危機で核抑止のもろさが透けて見えたとくに、フクシマの徹底検証は世界に大きな学びを残すだろう。それを成しとげる責任が日本にはある。